

総合型地域スポーツクラブ北海道ネット(通称:SC 北海道ネット)

「SC北海道ネットが目指すもの」

～地域の課題解決に役立つ取り組みを支援～

1. 加盟 70 クラブ

総合型地域スポーツクラブ北海道ネット(以下、SC 北海道ネット)は、平成 21 年 1 月、趣旨に賛同した 34 クラブで設立しました。現在は加盟 70 クラブ。北海道内のクラブの加盟率 58%。「自分のクラブのことで精一杯」「かかわるのが面倒」というクラブが多くあることは認めざるを得ません。

SC 北海道ネットに特別な構想や目標はありません。あくまでもシンプルに、個々のクラブが求める情報や研修機会を提供し続けます。また、SC 全国ネットワーク等に「クラブの声」を届けるという使命を担います。

2. 研修会は「すぐ使える内容」で

研修会は多くのクラブが求めるメニューを考えて提供。平成 21 年度からこれまでに計 12 回、ほぼ年 3 回ペースで開いています。このうち 7 回は実技研修として「キンボール」「フロアカーリング」「笑いヨガ」など、各クラブがスポーツ教室ですぐ使えそうなメニューを提供してきました。



キンボールの実技講習会



笑いヨガの実技講習会

3. ハンディとメリット

北海道は面積が広いこと(九州と四国を足した面積より大きい)がハンディになっています。どこに集まるにも多額の旅費がかかるからです。

また、北海道は推定 7 割が教育委員会主導で設立したクラブのため、全体的に「お上にすぎる体質」があるような気がしています(個人的な感想ですが)。この体質は自主自立の意欲がわきにくく、主体的に行動しづらい雰囲気になりがちです。

他方、北海道はSC全国ネットワーク全 9 ブロック(*)のうち唯一「1 道(県) 1 ブロック」ですから会議は一回で済み、他都府県に比べ効率的な議論ができるといったメリット?もあります。

4. 創意工夫で事業運営

ハンディ克服に特効薬はありません。研修会はクラブミーティング(*)に併せて開催するなどして旅費を節約できる日を選び、講師はなるべく SC 北海道ネット加盟クラブ内でやりくりしております。

お上にすがる体質の改善は難問ですが、SC 北海道ネットではスポーツ基本法の施行に併せ、機会あるごとに「地域の課題解決に役立つ取り組み」を検討、実践することでの自立を促しております。

5. 目指せ！子どもの体力向上

北海道の子どもたちの体力が全国下位という実態（文部科学省調べ）を憂い、平成 23 年度から、北海道体育協会と連携してコーディネーショントレーニング（以下、COT）による子どもの体力、運動能力向上に取り組んでいます。

COTは、脳と神経の回路の刺激で「自分の体を巧みに動かす能力」が総合的に身につくと言われていますが、実践研究から「運動だけでなく、相手を思いやる心、考える心が育まれた」「学習の集中力がアップした」といった成果も出ており、注目されております。

SC 北海道ネットが提案したこの取り組みに、道内 29 クラブが賛同、うち 14 クラブが本格的に事業に取り入れ、4 クラブは行政を巻き込み、マチぐるみの事業として展開するようになりました。

6. 今後について

今後は、活動の継続から地域の課題解決に役立つクラブが増え、認知度も高まれば、総合型クラブのない地域から「わがマチにも作ろう」という機運が芽生えることが期待できます。SC 北海道ネットの取り組みが、そんな機運を高めるきっかけになれば、してやったりですが……。



（伊端隆康 SC北海道ネット会長）

【総合型地域スポーツクラブ北海道ネット(SC北海道ネット)連絡先】

〒077-0027 北海道留萌市住之江町 2 丁目 市立留萌図書館内

北海道総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 伊端隆康

TEL:0164-42-2300 FAX:0164-42-2303

(*) クラブミーティング詳細および全国 9 ブロック（対象都道府県）は、以下 URL 参照

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/508/Default.aspx>

参考リンク：スポーツ基本法 http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/